

考備	合	打
<p>一本表ハ第三標式ニ記載シタル者ニ對スル當年中ニ於テ扶助金額ヲ各欄ニ記載スルコト ニ障害扶助ニ別個ノ標準ヲ採ルモト雖本表ノ区分ニ分類記入スルコト</p>	計	切 扶 助 料



第五號様式(用紙日本紙規格B4)

傭人及供給労働者災害調

昭和 年 至 月

提出

原因別

死亡者  
重傷者  
輕傷者  
合計

齒輪、滑車、バルト

男  
女  
計

杭打機

男  
女  
計

鋸機

男  
女  
計

昇降機

男  
女  
計

其他

男  
女  
計

工具類ニ因ルモノ

男  
女  
計

脱線、顛覆、衝突

男  
女  
計

車ヨリ墜落

男  
女  
計

其他

男  
女  
計

足場ヨリ

男  
女  
計

階上ヨリ

男  
女  
計

其他

男  
女  
計

落

男  
女  
計

其他

男  
女  
計

物体、衝突ニ因ルモノ

男  
女  
計







領書第 二二六八

六月九日

社會局

發勞第七六號ノ二

昭和七年六月二十八日

八七三

陸軍省  
7. 6 29  
午前 12 時  
恩賞課

社會局長

陸軍次官殿



労働者災害扶助法施行状況通報ニ關スル件

國ノ直營スル労働者災害扶助法適用事業ニ於ケル同法（傭人扶助令、共済組合規定、供給労働者扶助令ヲ含ム）施行状況ニ關シ左記様式ニ依ル統計表毎年取繼メ翌年四月末日迄（附表第一號及第二號ハ其ノ年十二月三十一日迄）ニ御報告相煩度此旨及御依頼候也

附表  
様式ハ恩賞課ニ於テ  
保管ス

或ル労働者死傷報告ノ内休業八日以上ヲ  
翌々月二十日迄ニ當局ニ御廻付相成



領書第ニ二六八

六月九日

發勞第七六號ノ二

昭和七年六月二十八日

八七三

陸軍省  
7. 6 29  
午前 12 時  
恩賞課

社  
會  
局

社  
會  
局  
長

陸  
軍  
次  
官  
殿



労働者災害扶助法施行状況通報ニ關スル件

國ノ直營スル労働者災害扶助法適用事業ニ於ケル同法（傭人扶助令、共済組合規定、供給労働者扶助令ヲ含ム）施行状況ニ關シ左記様式ニ依ル統計表毎年取纏メ翌年四月末日迄（附表第一號及第二號ハ其ノ年十二月三十一日迄）ニ御報告相煩度此旨及御依頼候也

追而労働者災害扶助法施行規則第五條ニ依ル労働者死傷報告ノ内休業八日以上ヲ要スヘキモノ及死亡ノ分ハ各一通毎月取纏メ翌々月二十日迄ニ當局ニ御廻付相成度

恩賞



保存期限

五年

決裁指定

大臣

決行指定

牛島

政務次官 回付 決裁前後連帶

決行(決裁後) 回覽課名

受領番號

二五五七

起元廳(課)名

陸軍省人車局恩賞課

陸軍省 10.12.10 監查課

件名 陸軍共濟組合財産管理方法ノ件

永久甲

大臣



政務次官

次官

主務局長

參與官

高級副官

主務課長

書記官

主務副官 官房御用掛

主務課員

審案 筆記者

大臣房	主務局長	受領	提出	受領	了結
昭和三十二年十一月十二日	昭和三十二年十一月六日	昭和三十二年十一月六日	昭和三十二年十一月六日	昭和三十二年十一月六日	昭和三十二年十一月十二日

決行(決裁後) 回覽	連帶
局長代	局長
長課	長課

陸共第一三三號





決裁案

陸軍共濟組合資金ヲ以テ左記外國債  
購入致度

右決裁ヲ乞フ

昭和十年三月六日

追而滿洲帝國公債購入ノ件ハ別紙  
議案第六十三號ニ對シ昭和十年十二月  
二日陸軍共濟組合運用委員會ニ於テ  
可決セラレタルモノニ付申添フ

左記

滿洲帝國四分利公債 四拾萬圓



議案第六十三號

滿洲帝國四分利公債購入件

一 買入額面 四拾萬圓

說明

滿洲國公債ハ昭和七年十一月議案第三十四號  
及昭和八年一月議案第三十六號ニ基キ組合ニ於テ  
現在五拾貳萬圓ヲ所有ス然ルニ別紙組合收支  
豫定表掲載ノ如ク十二月二日抽籤ヲ以テ拾萬五千円  
ノ償還アル豫定ナリ

右公債ハ確實性ニ於テハ内國債ノ次位ニ相當シ利



廻モ亦左記、如ク現在ニ於テハ有利ナルト他方國  
 家的見地ヨリスルモ之カ投資ハ適當ト認ムルヲ以テ  
 此際前記償還額中、拾萬円及別紙運用  
 資金中、參拾萬円合計四拾萬円ヲ以テ本  
 案、如ク購入スルヲ適當ト認ム  
 左記

滿洲帝國有利公債	銘 柄	利率	值 紋	利 廻	償 還 年 月
		四 <sup>分</sup> 。	九六 <sup>四</sup> 。	四 <sup>分</sup> 。	昭和二十二年八月



別紙

自昭和十一年十一月間共濟組合收支豫定表

陸軍

月別	事由	金額
十月	內國債利子	九八七四
十月	證券信託利益	一〇一四
十月	信託預金利益	九九七
十月	滿洲國債利子	三〇〇〇
十月	滿洲國債償還	一五〇〇
十月	信託預金満了	一〇〇〇〇
十月	政府給與金	六三〇〇
十月	信託預金満了	三〇〇〇
十月	信託預金満了	五〇〇〇

月別	事由	金額
十月	陸軍造兵廠其他	四七〇〇
十月	日本齒科醫師會	六〇〇〇
十月	日本醫師會	四五〇〇
十月	雇員給料外	六九〇〇







保存期限

永久

決裁指定

次官

決行指定

牛島

政務次官 回付 決裁前連帶  
參與官 課名

12

決行(決裁)後  
回覽課名

起元廳(課)名

恩賞

永久

件名 幹部候補生、恩給法上ノ取扱ニ関スル件

大臣 牛島

房官臣大	課局務主
了結	領受
昭 和 年 五月廿四日	昭 和 年 五月十日
出提	領受
昭 和 十 年 五月十日	昭 和 年 五月十日
號番	鳳 三 一 八 〇 號

(裁決)行決 覽回後	帶連
長局	長局
長課	長課

局長	次官	政務次官
主務局長	高級副官	參與官
主務課長	主務副官	書記官
主務課員	官房御用掛	審案
藤村	小南	筆記者
藤村		
藤村		

長官



甲輯第三類目次  
會計經理

編次番號	件	名	形式	主務	年	受	番號
一	支那在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増給ニ関スル件	照	監査	九	貳	二五八一	合
二	備人ノ防寒用薪炭支給方ニ関スル件	通	主計	九	全	二六二三	合
三	豫算外國庫ノ負担トナルキ契約ニ関スル件	達	全	一〇	全	一〇四	合
四	陸軍給與令細則中改正ニ関スル件	通	監査	九	全	一四一八	合
五	内地滿洲相互間ノ旅行順路變更ノ件	通	監査	一〇	貳	一五四	合
六	在鮮在支部隊一時越境場合ニ於テル給與ニ関スル件	達	全	一〇	全	一六四	合
七	支那駐屯軍旅費規程改正ノ件	指	全	一〇	參	五六	合
八	被服定額表中改正ノ件	達	衣	一〇	貳	一八一	合
九	滿洲又ハ支那派遣部隊ノ要員ニ滞在旅費支給方ノ件	通	監	一〇	貳	二〇三	合
一〇	外國在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増給ニ関スル件	達	全	一〇	全	二六〇	合

陸軍



副官ヲ陸軍一般へ通牒ス

(陸普甲)

首題ノ件ニ関シ、往々質疑ノ向アルモ、幹部候補生ハ恩給法ニ於テ之ヲ軍人ト認メ同法ノ軍人ニ關スル規定ヲ適用セシマリ、從テ傷痍疾病若ハ死亡ノ廉ニ對シ恩給ヲ給スルキ事由ノ生じタルトキハ其ノ原因階等ニ應ジ恩給ヲ給與可相成モト下承知アリ度、依命通牒ス

陸普第七一三八號 昭和十年三月十三日

甲



一六	一五	一四	一三	一二	一一
雇員扶助料支給に關し基本給料算定方式	被服手當ノ支給に關スル件	陸軍里程表中改正ノ件	他部隊ニ轉属シタル幹部候補生ノ被服費及軍隊需品費定額増減方式に關スル件	滿洲及支那河業者ニ出張スル者ノ支度料制限に關スル件	昭和四年陸晉第五四五八號中品目追加及削除件
照	全	全	全	全	通
全	全	全	全	全	監査
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
全	全	全	全	貳	壹
五二七	六四六	五八三	五四八	五六四	二六四
合	合	合	合	合	合

陸

員



二二	二一	二〇	一九	一八	一七
幹部候補生、給與に關する件	留守隊長、隊長加俸支給の件	初度巡視旅費に關する件	外國在勤者等に支給する給與、臨時増給に關する件	外國貨幣換算價格改正の件	朝鮮滿洲駐劄部隊下士以下通譯加俸給與人員區分中改正の件
全	全	通	達	通	達
全	監査	主計	全	全	監査
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
全	全	全	貳	壹	貳
九七四	九七五	七九七	七九二	九九四	七三九
合	合	合	合	合	合



二八	二七	二六	二五	二四	二三
航空加俸支給規則中改正一件	滿洲國々幣ニ依ル前渡資金取扱規程一件	豫算外國庫ノ負擔トシテキ契約ニ関スル件	航空加俸支給ニ関スル件	樺太内旅費規程中改正一件	朝鮮臺灣樺太滿洲及支那駐劄陸軍部隊宿舎家具備付規程中改正一件
陸達	令	達	令	指	達
令	令	令	令	令	令
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
令	令	令	令	令	令
一五五九	一三七四	一三三八	四七〇	九五七	一八九六
合	合	合	合	合	合

陸  
令  
頁



二九	旅費支給支給廳1件中改正1件	通	監査	一〇	頁	一五三三	合
三〇	委託検査ニ依ル金銭物品出納證明及検査規程中改正1件	陸達	令	一〇	令	一五七七	合
三一	陸軍物品會計規程中改正1件	令	令	一〇	令	一五七八	合
三二	臨時編成部隊航空加俸支給方ニ関スル件	通	令	一〇	令	一六一二	合
三三	歳入收入官ノ特例ニ関スル件	照	令	一〇	令	一五〇六	合
三四	官衙學校經理規程中改正1件	陸達	令	一〇	令	一六三八	合



三五 陸軍會計事務規程中改正一件

三六 陸軍旅費規則中改正一件

三七 不動産登記嘱託官吏指定一件中改正一件

三八 千住製絨所製品賣拂代金延納關スル件

三九 在外國大使館附及公使館附陸軍武官俸給令中改正一件

四〇 退官ニ際シ陸軍文官ニ任用セラレタル者ノ旅費ニ関スル件

陸軍令

省令

省令

照令

勅令

通令

一〇

一〇

一〇

七

一〇

一〇

一六五四

一五三七

一六八四

一四三八

一〇九七

一七七八

合

合

合

合

合

合

陸

軍



四一	陸軍給與令中改正ノ件	勅令	一	貳	一五四〇	合
四二	國有財産整理次員金特別會計歳入科目ニ関スル件	通令	一	壹	二六八七	合
四三	外國在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増給ニ関スル件	達令	一	貳	二〇二四	合
四四	航空加俸増給ノ件	指令	一	參	八八〇	合
四五	昭和九年度國有財産増減報告書送付ノ件	通令	一	貳	二五六	合
四六	豫算外國庫ノ負担トナルニキ契約ニ関スル件	達令	一	壹	二五八	合



四七 被服手當支給方之関スル件

四八 陸軍給與令細則中改正ノ件

四九 陸軍給與令細則中改正ノ関スル件

五〇 朝鮮滿洲駐劄陸軍部隊給與令之細則中改正ノ件

五一 支那駐劄陸軍部隊給與令細則中改正ノ件

五二 臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則中改正ノ件

通 監査 一〇 貳 二七五 合

陸 達 令 一〇 令 二六九 合

通 令 一〇 令 二六九 合

陸 達 令 一〇 令 二六九 合

令 令 一〇 令 二六九 合

令 令 一〇 令 二六九 合

陸 員



五三	陸軍給與令細則中改正ニ伴ヒ自然消滅トナルヘキ通牒ノ件	通	監査	一〇	貳	二九五	合
五四	管内居住下士官兵被服所持定数一時増加ニ関スル件	指	衣糧	一〇	肆	一九〇	合
五五	増加徴集セラルヘキ現役兵ノ被服費及軍隊需品費ニ関スル件	通	監査	一〇	貳	二三五	合
五六	會計検査院ノ審査書及照會ノ答辭及回答手續ニ関スル件	令	令	一〇	令	二三五	合
五七	陸軍平時編制中特別規定ノ制定ニ伴フ被服費及軍隊需品費定額増減ニ関スル件	令	令	一〇	令	二三四	合
五八	飛行第九聯隊轉營前ニ於ケル被服費、軍隊需品費等ノ取扱方ニ関スル件	令	令	一〇	令	二四三	合



五九 陸軍里程表中改正ノ件

六〇 航空加俸支給規則中改正ノ件

六一 陸軍給與令中改正ノ件

六二 召集中ノ豫備役幹部候補生ニ在勤加俸及特別手当當給否ニ関スル件

通 監査 一〇 貳 二四〇七

陸達 令 一〇 全 二五二一

勅令 令 一〇 全 二四三五

通 令 一〇 全 二六五七

合 合 合 合

五

七



保存期限

十年

決裁指定

次官  
委任

決行指定

政務次官  
參與官  
回付

決裁前後  
連帶主

軍  
永久甲  
合計

決行(決裁)後  
回覽課名

9.11.27

主計課

受領  
番號

陸軍省  
受領番號

二五八一號

起元應(課)名

監

查

課

件名

支那在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増給ニ關スル件

大臣委

政務  
次官

次官

主務  
局長

參與官

高級  
副官

主務  
課長

書記官

主務副官  
官房御用掛

主務課員

審案  
筆記者

房官臣大		課局務主		番號 第一〇四號
了結	領受	出提	領受	
昭和	昭和	昭和	昭和	
昭和 年 月 日		昭和 年 月 日		

決行(決裁)後  
回覽

局長

連帶  
局長

長課

長課

江藤





大臣ヨリ大藏大臣へ協議案

陸軍軍人軍屬ニシテ支那ニ在勤、駐劄、駐在若ハ旅行中ノ者ニ對シ  
テハ本年十一月一日ヨリ昭和十年三月三十一日ニ至ル間各其ノ定額  
ニ對シ別表ノ通臨時増給致度此段及協議候

一別表ハ陸普案別表ノ通一

陸普第七三八九號 昭和九年三月十日

右異存ナキ旨回答アリタル後

陸普第 號

陸軍一般

(一甲)

昭和七年勅令第九十號ニ依リ支那在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増





給支給方左ノ通定ム

昭和九年十一月一日

陸普第二四號

昭和十年一月九日甲

陸軍大臣

陸軍軍人軍屬ニシテ支那ニ在勤、駐劄、駐在若ハ旅行中ノ者ニ對シ  
 テハ本<sup>昭和十年</sup>十一月一日ヨリ昭<sup>同</sup>和十年三月三十一日ニ至ル間各其ノ定額  
 ニ對シ別表ノ通臨時増給ス

陸軍



別表

<p>在勤俸其ノ他臨時増給</p>	<p>駐在勤俸、在勤加俸、妻加俸 在勤手当、派遣手当、馬飼料</p>	<p>旅費</p>
	<p>一 割</p>	<p>一 割 五 分</p>
<p>備</p> <p>一 臨時増給額ヲ異ニスル場合同日ニ生ジタルトキハ其ノ多額ニ付之ヲ給ス</p> <p>二 旅費中ノ鐵道賃(急行料金及寢臺料金ヲ含ム)、船賃、車馬賃、私屬荷物ノ運賃、支度料、移轉料並ニ水路旅行中ノ日當及食卓料ニ付テハ臨時増給ヲ爲サズ又家族移轉料ノ計算ニ付テハ其ノ計算ノ基礎タル日當(水路旅行中ノモノヲ除ク)及宿泊料ノ増給セラルベキ部分ニ限り増給スルモノトス</p> <p>三 臨時増給ハ何レモ現行規定ニ定ムル給與額又ハ現ニ給與シアル金額ヲ標準トスルモノトス</p> <p>四 臨時増給ハ基本タル給與ト同時ニ之ヲ支給又ハ送金スルモノトス</p>	<p>六三</p>	<p>四七</p>



考

ス但シ止ムヲ得ザル事由ニ依リ同時ニ支給又ハ送金シ得ザル場合ニ於テハ基本タル給與ヲ支給又ハ送金ノ日ノ臨時増給率ニ依リ増給スルモノトス

五 基本タル給與ノ後拂又ハ追給ヲ要スルトキハ其ノ原因タル事實ノ生ジタル月ニ於テ支給又ハ送金シタル場合ニ適用スベカリシ臨時増給率ニ依リ返納ヲ要スルトキハ其ノ返納ヲ要スベキ給與ニ付適用セラレタル臨時増給率ニ依ルモノトス

六 基本タル給與及其ノ増給ノ支拂ノ爲之カ資金ヲ前渡スル場合並ニ其ノ前渡シタル資金ヲ以テ基本タル給與及其ノ増給ノ支拂ヲ爲ス場合ニ付テモ亦前各號ニ準ズルモノトス

七 基本タル給與及臨時増給ハ支給又ハ送金ノ月ヲ含ミ三月分ヲ超エテ支給又ハ送金セザルモノトス



昭和十年自一月以降支那國在勤者ノ在勤俸及臨時增給所要額調

階級	區分		增給スベキ基本タル給與		臨時增給	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額
中將	1	18,250	1	18,250	1	18,250
少將	1	12,925	1	12,925	1	12,925
大佐	3	53,100	3	53,100	3	53,100
中佐	5	44,550	5	44,550	5	44,550
少佐	1	37,350	1	37,350	1	37,350
大尉	4	25,500	4	25,500	4	25,500
中尉	2	22,250	2	22,250	2	22,250
少尉	2	18,900	2	18,900	2	18,900
准士官	2	16,200	2	16,200	2	16,200
營曹長	5	9,000	5	9,000	5	9,000
外軍曹	5	7,425	5	7,425	5	7,425
附武官館	1	12,925	1	12,925	1	12,925
駐在員	1	12,925	1	12,925	1	12,925
學校配	1	12,925	1	12,925	1	12,925
支那駐屯軍	1	18,250	1	18,250	1	18,250
人員	1	18,250	1	18,250	1	18,250
單價小計	1	18,250	1	18,250	1	18,250



合計	小計	備人	雇員		計	判任文官	高等文官	住居内					住居				
			其他	技術				一、二等兵	上等兵	勤務兵	下士官	伍長	軍曹	曹長	上等兵	伍長	
10,254,558	2				2												
	33,275				33,275												
	1,375				1,375												
	2				2												
	54,079				54,079												
	315	73	41	21	197	31	5	1367	163	40	37	45	16	10	7		
		975	800	1299		12878	3200	1962	2034	2106	2735	3635	4916	5175	5735		
	97,412,9	71,750	3,400,000	272,979	84,364,000	39,911,8	162,000	268,254	335,422	84,250	101,065	123,012	78,656	51,750	40,162		
10,254,550	2				2												
	33,275				33,275												
	1,375				1,375												
	2				2												
	54,079				54,079												
	315	73	41	21	197	31	5	1367	163	40	37	45	16	10	7		
		975	800	1299		12878	3200	1962	2034	2106	2731	3632	4916	5177	5737		
	97,412,9	71,750	3,400,000	272,977	84,364,000	39,911,1	162,000	268,255	335,454	84,266	101,066	123,011	78,655	51,750	40,166		



支那

藏計第七三一號

昭和九年十一月六日

大藏省主計局長 賀 屋 興 宣

陸軍省經理局長 平手勘次郎 殿

支那國在勤者等ニ對スル昭和七年勅令第九十號ニ依ル給與ノ臨時増給ニ付テハ十一月以降本年度内送金ノ分ニ限り在勤俸及之ニ準スル給與ニ付テハ其ノ一割以内、旅費及之ニ準スル給與ニ付テハ一割五分以内臨時増給スルコトト致度ニ付必要ニ應シ之カ増給ヲ爲スヘキ給與ノ種類及臨時増給率ニ付基本タル給與ノ豫算額及臨時増給所要額添付一旅費ニ付テハ基本タル給與ノ豫算額及臨時増給所要額ノ添付ヲ要セス一御協議相成様致度經省議此段及通牒候也



追テ本件臨時増給實施ニ要スル經費ハ總テ既定豫算ヲ以テ支辨シ  
不足ヲ生シタルトキハ補充費途ニ屬スルモノニ限り必要ニ應シ第  
一豫備金ヨリ補充スルコトト致度尙其ノ他ノ事項ニ付テハ總テ曩  
ニ協議濟ニ係ル臨時増給ニ關スル準則ヲ適用相成度ニ付此段申添  
候



貳 第二五八一

藏計第八四六號

昭和九年十二月二十八日

大藏大臣 高橋 是

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿



十二月十日附陸普第七三八九號ヲ以テ貴省支那在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増給ニ關シ御協議ノ趣了承右ハ異存無之ニ付此段及回答候也

大 藏 省







副官ヨリ各支出官宛

本年一月一日陸普第二四號達首題臨時増給ノ支出科目ハ左記ノ通ニ付承知相成度

左

記陸普第二一八號 昭和十年一月十九日

區分	支出科目
公使館附陸軍武官及同補佐官ノ在勤俸	臨時部 在勤俸其他臨時増給
妻 加 俸	右 同
駐在員(駐在手當、派遣手當)	右 同
右以外ノモノ、在勤加俸及旅費	基本給與ト同一科目
追而旅費ニアリテハ令達(認可)豫算内支辨トス	







副官ヨリ 關東軍參謀長 朝鮮軍參謀長 へ通牒 出

滿洲 (安東、蓋原) 線 線上地區ヲ 以北ニ限ル) ニ在ル陸軍部隊ニ

屬スル軍屬タル傭人ニシテ在勤加俸若クハ特別手當ノ支給ヲ受ケ  
サル者ニ在リテモ必要アル場合ハ當分ノ間昭和九年陸普第七一〇  
七號第一號ノ規定ニ拘ラス補助ノ目的ヲ以テ防寒用薪炭ヲ支給シ  
得ルコトニ定メラレタルニ付 依命通牒ス

追テ之カ支給方法等ニ就テハ 陸普第七一〇七號第二號乃至第五  
號ヲ準用スル儀ト承知相成度

陸普第七五七五號

昭和九年三月廿日







陸軍被服本廠長ノ達

(陸普)

昭和十年一年度年一度頭初所要ノ被服品  
ニシテ九年度ニ於テ購買製作等ノ  
契約ヲ為スコトヲ必要トスルモノハ左  
記金額ノ範圍内ニ於テ之ヲ施行  
シ得ル儀ト心得

記

陸普第二八五號

昭和十年一月廿四日

一金百四拾參萬四千円 軍事費不糧費







副官ヨリ各師團（第十九及第二十師團ヲ除ク）參謀  
長（滿洲派遣ニ在リテハ留守參謀）、陸軍航空本部  
總務部長及陸軍被服本廠長へ通牒

今般陸達第三十號ヲ以テ陸軍給與令細則中改正セラレタル第二表  
生徒被服、第四表備附被服（其ノ一）、第四表備附被服（其ノ二）  
及第四表備附被服（其ノ四）ハ別紙ノ通ニ付承知相成度通牒ス

陸普第四四六六號

昭和九年七月十九日





第二表

生徒被服

備考	通信學校生徒		同 技術生徒		所澤飛行學校操縦生徒		工科學校生徒		戸山學校軍樂生徒		幼年學校生徒		士官學校豫科生徒		區 分 限 目 給 興 品
	三 年	二 年	三 年	二 年	三 年	二 年	三 年	二 年	三 年	二 年	三 年	二 年	三 年	二 年	
															軍帽
															軍帽
															軍冬衣
															軍夏衣
															外服
															防雨外服
															冬襪
															夏襪
															手袋
															靴
															編織上靴
															營內靴
															軍拍
															作業靴
															軍隊手袋
															背囊
															雜囊
															飯盒
															水筒
															携帶天幕
															被服手具

一 士官學校豫科生徒中幼年學校ヨリ入校ノ者ニ付テハ軍隊手袋ヲ除ク  
 二 幼年學校生徒中自費生ニ在リテハ管内靴、雜囊、水筒及被服手入具ヲ、半特待生ニ在リテハ帽、冬衣袴、夏衣袴、  
 外套、防雨外套、管内靴、雜囊、水筒及被服手入具ヲ除ク以外ノ被服ハ短期現役兵及自費生諸費ヨリ支給  
 スルモノトス























保存期限

決裁指定

決行指定



政務次官  
參與官  
回付  
決裁前  
連帶  
課名  
三計

決行決裁後  
回覽課名

昭和拾年壹月廿四日

10 1.24

受番  
頭號

九年  
式第一四一八号

起元應(課)名

初度被服現品交付ニ関スル件  
衣糧課

大臣



政務次官



參與官

書記官

審案  
筆記者

主務局長



主務課長



主務課員



次官

高級副官

主務副官  
官房御用掛



主務局

經被甲第一五號

連帶局長



課局

昭和一十年一月廿八日

長課

大臣官房

昭和一十年一月廿八日

局長

長課

決行決裁後  
回覽

33

33



副官ヨリ陸軍被服本廠長、  
教育總監部庶務課長へ通牒

(陸普)

昭和九年七月陸普第四四六六号陸軍  
給與令細則附表中改正之依ル初度  
被服別紙ノ通陸軍被服廠ヨリ現品  
交付セラルルニ付依命通牒ス

陸普第三六二號

昭和十年一月廿九





初年度現品交付員數表

陸軍工兵學校

品目	員數	内譯区分
運動帽	一 二 六	大八、中六、小五六
運動衣	一 二 六	大一四、中九、小二〇
運動帶	一 二 六	
運動靴	一 二 六	$\frac{1}{2}$ 丈七分、 $\frac{1}{2}$ 丈三分八、 $\frac{1}{2}$ 丈 $\frac{1}{2}$ 丈七分、 $\frac{1}{2}$ 丈五分、 $\frac{1}{2}$ 丈三分四、 $\frac{1}{2}$ 丈 二〇
作業帽	一 〇 五	大八、中五、小四七

備考

一、昭和九年七月十九日陸達第三十號給與令細則  
 改正ニ依ル増加備附被服、分



初年度現品交付員數表

陸軍重砲兵學校

品目	員數	内譯区分		
運動帽	六〇個	大	中	小
運動衣	六〇組	大	中	小
運動袴	六〇個	大	中	小
運動靴	六〇組	大	中	小

備考

一、昭和九年七月十九日陸軍第三〇號ニ依ル陸軍陸軍令  
 細則改正ニ伴フ増加備附被服ノ分

十文三分八、十文七分五、十一文五分、十一文一分二



陸軍

初度現品交付員數表

陸軍野戰砲兵學校

品目	員數	内訳
運動帽	四七個	大一、中三、小五
運動衣	四七組	大一、中三、小五
運動帶	四七個	
運動靴	四七組	大一、中三、小五
作業帽	二個	大一、中七、小一
作業衣	二組	大一、中七、小一
計		大一、中七、小一

備考

一、昭和八年九月陸達第二九號及昭和九年七月陸達第三〇號  
 給与令細則改正ニ依ル增加備附被服、分



蚊帳	枕皮(覆共)	敷團	蒲皮	毛布	品布	目
計						單位
人	分	分	分	分	箇	員
一	一	三	一	一	六	數
五	五	〇	五	五	〇	

初度被服現品交付員數表

陸軍士官學校

陸軍



区別	旧定数	陸軍部編定 号別定数	変更 増	説明
工号学校	0	126	126	
運動学校	0	105	105	
化学学校	0	60	60	
軍砲学校	0	47	47	
野砲学校	0	47	47	
運動学校	31	111	77	
化学学校	31	111	77	
陸軍士官学校	111	1976	1865	

内一五〇組ハ九年十月陸軍部六三ノ号ニテ交付ノ線一五組今回交付

陸軍



保存期限 十年 決裁指定 執行指定

政務次官 回付 決裁 前後連帶 防、主

永久甲 分 計

執行(決裁)後 回覽課名

10.1.29 20

受番 領受 陸軍省 貳第一五四號 起元應(課)名 監 課

件名 內地滿洲相互間ノ旅行順路變更ノ件



大臣 委

次官 委

參與官

書記官

審察 筆記者

主務局長

主務課長

主務課員

主務副官 官房御用掛 計

主務局長 領受 昭和 年 月 日 出提 昭和 年 月 日 領受 昭和 年 月 日 了結 昭和 年 月 日

連帶 (裁決)行決 覽回後

局長 局長

長課 長課

第五號

官

官



陸滿普第

號

(甲)

副官ヨリ陸軍一般へ

陸軍里程表ニ於テ内地(臺灣及樺太共)、滿洲相互間ノ旅行ニ付下  
關、釜山、京城、安東、蘇家屯經由ヲ順路トスルモノ(安奉線内各  
驛發著ノモノヲ除ク)ト雖本人ニ於テ神戸(又ハ門司)、大連經由  
ヲ希望スルトキハ所屬部隊長(轉任轉職等ノ場合ニ在リテハ舊所屬  
部隊長ヲ含ム)ニ於テ之ヲ許可シ之ニ應ズル旅費ヲ支給シ得ルコト  
ニ定メラレタルニ付通牒ス

追テ滿洲ニ在勤スル者神戸(又ハ門司)、大連經由ヲ以テ其ノ家  
族ヲ招致スル場合ノ乗船請求書ハ本人ノ現所屬部隊ニ於テ發行ス  
ル儀ニ付爲念申添フ

陸普第四三三號

昭和十年二月一日



說明

内地滿洲間ノ旅行順路ハ遼陽以南及間島方面以外ハ朝鮮經由ニ指定シアルモ旅行者中ニハ大連經由ヲ希望スルモノ相當アリ且前金渡ノ場合ニ於テハ大連經由ハ朝鮮經由ニ比シ旅費モ若干節約シ得ルヲ以テ希望者ニ對シテハ大連經由ヲ許可スルモノトス







朝鮮軍司令官又ハ支那駐屯軍司令官朝鮮又ハ支那ノ防衛又ハ警備等ノ必要ニ因リ朝鮮駐劄部隊又ハ支那駐劄部隊ヲ朝鮮又ハ支那ニ接攘スル滿洲地方ニ一時出動セシメタル場合ノ給與ハ陸軍大臣ニ於テ特ニ指定スル場合ノ外朝鮮駐劄部隊ニ在リテハ朝鮮滿洲駐劄陸軍部隊給與令、支那駐劄部隊ニ在リテハ支那駐劄陸軍部隊給與令ヲ適用シ當該越境部隊ノ要員ト爲リ又ハ當該越境部隊ノ用務ヲ以テ朝鮮ヨリ之ニ接攘スル滿洲地方ニ旅行スル者ニハ陸軍旅費規則ニ依ル支度料ヲ支給セズ

陸普第四九六號 昭和十年二月廿五日

理由

在鮮支部隊ガ中央部ノ命令又ハ指示ニ依ルコトナク現地ノ軍司令官



ノ獨斷權限ヲ以テ接攘地方ニ一時越境シタルトキハ特別ノ必要ナキ  
限り各々固有ノ給與令ヲ適用スルヲ適當トスルモ今回在滿陸軍部隊  
臨時給與令ノ制定ニ伴ヒ同令第一條ノ「滿洲ニ在ル部隊」ノ解釋ニ  
關連シ固有ノ給與令ニ依ルヤ或ハ滿臨給與令ニ依ルヤ疑義ヲ生スル  
惧アルヲ以テ豫メ明瞭ニ指達シ置クヲ適當トスルニ由ル

配布區分ハ參謀本部、憲兵  
司令部、朝鮮、滿洲及支那  
屯在各部隊







支那駐屯軍司令官へ指令（電報）

昭和九年十二月三十日天經第六四六號申請ノ通認可ス

陸二五

昭和十年二月六日





陸軍省 第五六號

天經第六四六號

支那駐屯軍旅費規程改正ノ件申請

昭和九年三月廿日

支那駐屯軍司令官梅津美治

陸軍大臣林銑十郎殿

陸軍旅費規則第七十三條ニ依リ當軍旅費規程別冊ノ通改定致度ニ付認可相成度



陸軍



別紙  
當課係管天

昭和十年二月十六日  
監査課







大臣ヨリ陸軍一般へ達

(陸普)

昭和五年九月陸普第三九五八號被服定額表中左記ノ通改正ニ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

左記一 陸普第五二七號 昭和十年二月六日

第十表

被服既製品現品交付價格中

防毒面

甲

一箇

五〇〇

ヲ



防毒面

甲

一箇

八五〇

携帶袋  
其他

一六

五〇〇

二四

〇〇〇

二改

7

L

陸

軍







副官ヨリ陸軍一般へ

滿洲又ハ支那派遣諸部隊ノ編成又ハ編制改正等ノ際當該派遣部隊ノ  
要員トシテ他部隊（同一衛戍地ニ在ル他部隊ヲ除ク）ヨリ配屬セラ  
レ内地（朝鮮及臺灣ヲ含ム）ニ於ケル當該派遣部隊ノ編成地又ハ留  
守部隊ノ所在地等ニ到著後單獨滞在スル者ニハ昭和十年一月一日以  
降滞在間陸軍旅費規則第五表旅籠料定額（滞在三十日未滿ノ者ニハ  
同倍額）ノ滞在旅費ヲ支給スルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス  
進而派遣部隊ノ要員復員又ハ歸還ノ場合ニ於ケル滞在旅費支給方  
法備前ハ昭和七年陸滿普第八四七號ヲ準用スル儀ト奉知相成康

理

由

陸普第五六八號

昭和十年二月七日 甲

陸軍戰時給與規則ノ適用停止ニ伴ヒ同細則第二十二條第二項ニ代ハ



保存期限

十年

決裁指定

決行指定

字島

政務次官 回付 決裁前後 連帶 課名 主、軍

起元廳(課)名

監 查 課

決行(決裁)後 回覽 課名

永久甲 會計

件名 外國在勤者等ニ支給スル給與ノ臨時増給ニ関スル件

大臣 委

政務 次官

次官

主務 局長

高級 副官

主務 課長

主務 副官

主務 課員

主務 副官 官房御用掛

主務 課員

審案 筆記者

大臣房	局長	主務	課長	副官	主務	課員
了結	領受	出提	領受	號番	昭	昭
昭和	昭和	昭和	昭和	監第一三號	年	年
年	年	年	年		月	月
二月	二月	月	月		日	日
二十日	十四日					

決行後	決行後
局長	局長
	木村

課長	課長
	木村

局長 木村

課長 野田

課員 野田

課員 澤本

高級 副官 木村

主務 副官 字島

主務 副官 野田

審案 筆記者 野田

監 査 課



陸普第 號

陸軍一般

(甲)

昭和七年勅令第九十號ニ依ル臨時増給支給ノ件左ノ通定ム

昭和 年 月 日

陸軍大臣

陸軍軍人軍属ニシテ別表ノ國ニ在勤、駐劄、駐在若ハ旅行  
中ノ者ニ對シ昭和十年二月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル間ニ於テ支  
給又ハ送金スル在勤俸、旅費等ニ付テハ各其ノ定額ニ對シ別  
表ノ區分ニ依リ臨時増給ス

陸普第七二七號 昭和十年二月十六日

















智	壘	洪	考	備
惠	太	牙	八	一
右	利	利	給	フイリッピン及パナマハ米國、シリヤ及何蘭西蘇護領七口ッコハ併國、アフガニス
十	九	十	又	二
割	割	割	ハ	三
十	十	十	送	四
二	五	六	金	五
割	分	割	セ	六
濃	新	割	ガ	七
	西	ウ	ル	八
		ル	グ	九
		グ	ワ	十
		ワ	イ	十一
		イ		十二
				十三
				十四
				十五
				十六
				十七
				十八
				十九
				二十
				二十一
				二十二
				二十三
				二十四
				二十五
				二十六
				二十七
				二十八
				二十九
				三十
				三十一
				三十二
				三十三
				三十四
				三十五
				三十六
				三十七
				三十八
				三十九
				四十
				四十一
				四十二
				四十三
				四十四
				四十五
				四十六
				四十七
				四十八
				四十九
				五十
				五十一
				五十二
				五十三
				五十四
				五十五
				五十六
				五十七
				五十八
				五十九
				六十
				六十一
				六十二
				六十三
				六十四
				六十五
				六十六
				六十七
				六十八
				六十九
				七十
				七十一
				七十二
				七十三
				七十四
				七十五
				七十六
				七十七
				七十八
				七十九
				八十
				八十一
				八十二
				八十三
				八十四
				八十五
				八十六
				八十七
				八十八
				八十九
				九十
				九十一
				九十二
				九十三
				九十四
				九十五
				九十六
				九十七
				九十八
				九十九
				一百



第一

牛島

執行指定

警務

決裁指定

永久

保存期限

陸軍省  
10.3.4.  
警務課

陸軍省  
10.2.14  
警務課

陸軍省  
10.2.20  
警務課

陸軍省  
10.2.7  
警務課

陸軍省  
10.2.12  
警務課

陸軍省  
10.2.12  
警務課

房官臣大		課局務主		大臣 委	件名 昭和四年陸軍普第五四八號中品目追加及削除	番受	壹第二六四號
了結	領受	出提	領受			號領	監大
昭和	昭和	昭和	昭和			第一一號	省
年	年	年	年			三月十四日	課
(裁決)行決		帶連		局長	政務	起元廳(課)名	監大
覽回後		局長		次官	次官	陸軍省	省
長局		局長		主務	政務	10.3.2	省
長課		長課		課長	政務	10.3.5	省
長課		長課		主務	政務	10.2.6	省
長課		長課		主務	政務	10.2.5	省

長官

陸軍省  
10.3.2  
警務課  
陸軍省  
10.3.5  
警務課  
陸軍省  
10.2.6  
警務課  
陸軍省  
10.2.5  
警務課



副官ヨリ陸軍一般へ通牒

昭和四年陸普第五四五八號中左記品目ヲ追加及削  
除ス

記

陸普第一二三四號

昭和十年三月十一日甲

一各省購入外國品中内國品ヲ以テスルヲ可ト認ムル種目  
追加(第六回)

一 硬度計(特殊品ヲ除ク)

二 工業用ピアノ線(特殊品ヲ除ク高級品ヲ除ク意ナリ)

三 電氣鐵板(特殊品ヲ除ク)

四 ダイヤモンドツール

五 鑿金岩機(特殊大型ノモノヲ除ク)



六 金切鋏

七 卷煙草製造機

八 ストーカー

九 夜警時計

一〇 鉋削機

一一 豎鋸機

一二 碎礦機

一三 アルミニウム箔

一四 タイムレコーダー

一五 顯微鏡(特殊品ヲ除ク倍率ノ頗ル大ナルモノヲ除ク意ナリ)

一六 重油爐

=

=

尾

尾



一七 換氣棒

一八 箱 錠

一九 草刈機

二〇 ショツパー型抗張試験機

二一 陶 齒

二二 ゴム手袋(手術用ヲ除ク)

二三 タイプライターリボン

二四 寫真用乾板(特殊品ヲ除ク整色性、赤外線航空用其ノ他特殊ノモノヲ除ク意ナリ)

二五 メタル

二六 オイルシート、パツキング

二七 通信用蓄電器



二八 高聲電話機

二九 無線用サイフオン・レコーダー

三〇 無投影照明装置

三一 電氣冷蔵庫(特殊品ヲ除ク直流用ノモノヲ除ク意ナリ)

三二 交流用積算電力計

三三 電位差計(特殊品ヲ除ク特ニ精度高キモノヲ除ク意ナリ)

三四 檢流計(特殊品ヲ除ク特ニ精度高キモノヲ除ク意ナリ)

三五 石英水銀燈式褪色試験器

二 各省購入外國品中外國品ノ購入已ムヲ得ザルモノト認  
ムル種目中削除(第一回)

夜警時計









陸軍省 第二六四號

藏理第七一號

昭和十年一月二十九日

大藏大臣 高橋 是

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

發ニ及通知置候各省購入外國品中内國品ニ代フルヲ可トスルモノト外國品ノ購入已ムヲ待サルモノトノ區分ニ關シ別紙品目ノ通追加致候ニ付此段及御通知候也



省



別紙

一、各省購入外國品目中内國品ヲ以テスルヲ可トスルモノ左ノ如シ

一、硬 度 計 (特殊品ヲ除ク)

二、工業用ピアノノ線 (特殊品ヲ除ク)

三、電氣録板 (特殊品ヲ除ク)

四、ダイヤモンドツール

五、鑿 岩 機 (特殊大型ノモノヲ除ク)

六、金 切 鉄

七、捲煙草製造機

八、ストロカ

九、夜警時計

一〇、鋤 削 機

一一、豎 鋸 機

一二、碎 鑽 機



- 一三、アルミニウム箔
- 一四、タイムレコーダー
- 一五、顕微鏡（特殊品ヲ除ク）
- 一六、重油 爐
- 一七、換気 枠
- 一八、箱 錠
- 一九、草刈 機
- 二〇、シヨツパー型抗張試験機
- 二一、陶 齒
- 二二、ゴム手袋（手術用ヲ除ク）
- 二三、ナイプライザーマシン
- 二四、寫真用乾板（特殊品ヲ除ク）
- 二五、ガラスノール
- 二六、ナイルシート、パツキング



二七 通信用蓄電池

二八 高聲電話機

二九 無線用サイフォン・レコーダー

三〇 無投影照明装置

三一 電氣冷蔵庫 (特殊品ヲ除ク)

三二 交流用積算電力計

三三 電位差計 (特殊品ヲ除ク)

三四 板流計 (特殊品ヲ除ク)

三五 石英水銀燈式褪色試験器

三、昭和四年十月十四日決定シタル各省輸入外國品目中外國品ノ購入已ム  
ヲ待サルモノト認ムル品目中左記品目ハ前記(一)内國品ヲ以テ可トスルモノ  
ノ品目中ニ決定セラルヲ以テ之ヲ削除ス。

夜警時計

高聲電話機



保存期限

永久

決裁指定

咨

決行指定

牛島

政務次官 回付 決裁 前連帶主、軍、補

永久甲 合計

陸軍省 10.3.22 36 補任課

決行(決裁)後 回覽課名

10.3.19 118 課

10.3.18 課

受番

領

號

軍省

領

號

貳第

五六

四號

起元應(課)名

監

查

課

件名

滿洲及支那河北省ニ出張スル者ノ支度料制限ニ關スル件

大臣委

局長

主務

次官

政務

次官

參與官

局長

主務

高級

副官

參與官

主務課員

主務副官

官房御用掛

書記官

書記官

審案

筆記者

主務局課

受領

昭

和

年

月

日

監第二六號

昭

和

年

月

日

連帶

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

大官房

受領

昭

和

年

月

日

昭

和

年

月

日

決行(決裁)後

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

局長

500

500



副官ヨリ陸軍一般へ通牒

滿洲（關東州及滿洲國ヲ謂フ以下同ジ）及支那河北省ニ出張（演習其ノ他ノ軍隊旅行ヲ含ム）ヲ命ゼラレタル者ニ對シ陸軍旅費規則第七十六條ノ規定ニ依リ支給スル支度料ハ昭和十年四月一日以降左記各號ニ依ルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス

左記

一、出張豫定日數二箇月未滿ノ場合ハ陸軍旅費規則第六表ノ四分ノ一額ヲ給ス

二、出張豫定日數二箇月以上ノ場合ハ陸軍旅費規則第六表ノ半額ヲ給ス

三、支度料ノ支給ヲ受ケタル者其ノ出張ヲ命ゼラレタル日ヨリ一年以





内ニ再ビ滿洲又ハ支那河北省ニ出張ヲ命セラレタルトキハ支度料ヲ給セズ但シ第一號ニ依リ支度料ノ支給ヲ受ケタル者ニシテ二箇月ヲ超ユル出張ヲ命セラレタルトキハ前ニ受ケタル金額ト通ジテ陸軍旅費規則第六表ノ半額迄ヲ給ス

四所管長官ハ旅程ノ遠近、日數ノ多少、用務ノ性質等ニ依リ必要ト認ムルトキハ前各號ニ依ル支度料ノ給額ヲ減少シ又ハ之ヲ給セザルコトヲ得

**陸普第一五九八號**

**昭和十年三月廿七日**

理由

滿洲及支那河北省方面ニ對スル用務煩繁ナルニ伴ヒ旅行ヲ簡易ナラシムルト豫算ノ運用ヲ容易ナラシムル爲短期旅行者ニ對スル支度料ヲ制限スルノ要アルニ由ル



保存期限 永久  
 決裁指定  
 次任 委任  
 決行指定

大臣 委  
 主務局長  
 次官  
 政務次官  
 局長  
 主務局長  
 高級副官  
 主務副官  
 主務課長  
 主務課員  
 官房御用掛  
 審案  
 筆記者

受領 號  
 件名 他部隊ニ轉屬シタル幹部候補生ノ被服費及軍隊需品費定額増減方ニ關スル件  
 起元廳(課)名  
 監查課

大臣 委  
 主務局長  
 次官  
 政務次官  
 局長  
 主務局長  
 高級副官  
 主務副官  
 主務課長  
 主務課員  
 官房御用掛  
 審案  
 筆記者

政務次官 回付 決裁 後前連帶 主、衣、建、軍、  
 決行(決裁)後 回覽課名

永久甲

陸軍省 10.3.20

陸軍省 10.3.18

陸軍省 10.3.3.

陸軍省 10.3.13. 時 衣糧課

10.3.14

巨 巨



副官ヨリ陸軍一般へ通牒

陸軍補充令施行規則第九十五條第二項及第九十六條第二項ノ規定ニ依リ他部隊ニ轉屬シタル幹部候補生ニ係ル被服費及軍除需品費（昭和十一年四月一日以降）ハ其ノ人員ト轉屬以後ノ月數（一月ニ滿タザル端日數ハ之ヲ切捨ツ）以下同ジニ應ジ被服費ニ在リテハ下士官兵被服年額（兵ノ額ニ依ル）及特種被服年額ノ各月割額ヲ、消耗品料、煖室用薪炭料及陣營具永續料ニ在リテハ内地ハ陸軍給與令細則第十一表、第十二表及第十四表、臺灣ハ臺灣駐劄陸軍部隊給與規則細則第十五表及第十七表、朝鮮ハ朝鮮駐劄陸軍部隊給與令細則第九表、第九表ノ二及第九表ノ五、滿洲（關東州ヲ含ム）ハ在滿陸軍部隊臨時給與令細則第十一表ノ每一人年額ノ月割額ヲ舊所屬部隊ノ定額ヨリ控除シ新所屬部隊ニ對



シテハ其ノ人員ト轉屬以後ノ月數ニ應ズル當該月割額（新所屬部隊  
ノ定額ニ依ル）ヲ交付スルコトニ定メラレタルニ付承知相成度

陸普第一六三〇號

昭和十年三月廿八日



陸  
軍



陸軍

陸軍補充令施行規則拔萃

第九十四條

技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ハ採用後概ネ二月ノ後ヨリ技術ニ必要ナル教育ヲ行フ各部幹部候補生ニ對シテハ採用ノトキヨリ當該部ニ必要ナル教育ヲ行フ

前二項ノ教育ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第九十五條

技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ニ對スル前條第一項ノ教育ハ陸軍大臣ノ指定スル技術部隊ニ於テ之ヲ行ヒ當該部隊長其ノ教育ノ責ニ任ズ

前項ノ技術部隊ノ長ハ前條第一項ノ教育ノ為本人所屬ノ聯隊長ニ協議シ本人ヲ其ノ技術部隊ニ通學セシム

但シ技術部隊所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在ル軍隊ニ屬スル者ニ對シテハ師團長ハ之ヲ便宜ノ軍隊ニ轉屬セシムルコトヲ得

前條第一項ノ教育ヲ除ク外技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ズ

前條第一項ノ教育ヲ除ク外技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ズ

前條第一項ノ教育ヲ除ク外技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ズ

前條第一項ノ教育ヲ除ク外技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ズ

前條第一項ノ教育ヲ除ク外技術ニ従事スベキ各兵科幹部候補生ノ教育ハ聯隊長其ノ責ニ任ズ



第九十六條 各部幹部候補生ニ對スル第九十四條第二

項ノ教育ハ經理部幹部候補生ニ在リテハ師團經理部

長ノ命ズル當該經理部部員又ハ所屬隊附高級主計、

衛生部幹部候補生ニシテ軍醫タルベキ者ニ在リテハ

衛戍病院長及所屬隊附高級醫官、衛生部幹部候補生

ニシテ藥劑官タルベキ者ニ在リテハ衛戍病院長、獸

醫部幹部候補生ニ在リテハ所屬隊附高級獸醫各其ノ

責ニ任ジ師團經理部長、師團軍醫部長又師團獸醫部

長各其ノ所管ニ從ヒ之ヲ監督ス

第九十四條第二項ノ教育ノ為必要アルトキハ師團長

ハ各部幹部候補生ヲ便宜、軍隊ニ轉屬セシムルコト

ヲ得

前條第三項ノ規定ハ各部幹部候補生ノ教育ニ關シ之

ヲ準用ス



昭和九年度ニ於ケル各部幹部候補生轉属狀況調

第二師團												師團別	
經理部				獸醫部	衛生部	"						經理部	幹部候補生
騎	"	"	步	騎	"	"	"	"	"	"	步	轉属部隊	
三	三	一	六	二	四	三	一	二	四	三	二	一	
										一	三	二	
步				野砲	"	"						被轉属部隊	
				一	二	"						三	
				二	六	"							



第六師團		第五師團					第四師團				第三師團					
獸醫部	衛生部	經理部	衛生部	經理部			衛生部	經理部			獸醫部	衛生部				
			〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	步	野重	騎	〃	步	高
			四	四	二	四	六	七	八	三	三	六	六	一		
			一	二	一	一	一	〇	八	三	三	八	六	一		
一	一	一														
一	八	五	二	三	三	三	一	二	三	二	二	四	四	二	三	
騎	〃		〃				步			輜		〃				
六	一		一				三	七		三		一	八			



第十師團				第九師團		第八師團				第七師團				
衛生部		經理部		"		衛生部		經理部		衛生部		經理部		
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	步
一〇	六三	一〇	四〇	一九	三五	三二	一七	三二	一七	五	二八	二七	二八	二五
二	五	七	三	一	五	一	二	四	一	三	二	二	一	三
"				"		"				"		步		
三九				七		三一				二六		二七		







臺	第二十師團	獸醫部			
灣	臺灣經理部		臺步	二	
				三	二
			臺步		〃
					七八
					一



保存期限

十七年

決裁指定

局長

決行指定

牛島

第一四

政務大官 同付 決裁前後連帶 課名 主防

永久甲會計

決行(決裁)後 回覽課名

車

陸軍省 103.20 主計課

受領番號 陸軍省 貳第五八三號 陸軍里程表中改正ノ件 監查課

大臣 委任		局長 主務		次官		政務 次官	
委任		高級 副官		參與官		書記官	
主務課員		主務副官 官房御用掛		審案 筆記者			
連帶 局長		主務課長		審案 筆記者			
決行後 決覽 (裁決) 局長		主務課長		審案 筆記者			
領受 昭和三十七年三月廿七日		領受 昭和三十七年三月廿七日		領受 昭和三十七年三月廿七日		領受 昭和三十七年三月廿七日	
出提 昭和三十七年三月廿七日		出提 昭和三十七年三月廿七日		出提 昭和三十七年三月廿七日		出提 昭和三十七年三月廿七日	
房官臣大		課局務主		號番 監第 二八 號		了結 昭和三十七年三月廿七日	

監查課



副官ヨリ關係陸軍部隊へ通牒

陸軍里程表中左ノ通改正シ昭和十年<sup>四</sup>三月一日ヨリ實施スルコトニ定メラレタルニ付依命通牒ス

左記

陸普第一七〇一號 昭和十年三月卅日

一 堺市、金岡村、和泉町、和歌山市、加太町ヨリ九龜市、松山市ニ至ル順路ヲ和歌浦、小松島、徳島、佐古、引田、高松經由ニ改ム

二 由良町ヨリ徳島市、加茂名町ニ至ル順路ヲ洲本、福良、撫養、池谷、佐古經由ニ改ム

三 由良町ヨリ九龜市、善通寺町、松山市ニ至ル順路ヲ洲本、福良、撫養、池谷、高松經由ニ改ム



四由良町ヨリ高知市、朝倉村ニ至ル順路ヲ洲本、福良、  
撫養、池谷、佐古、阿波池田、三名、大田口經由ニ改ム

五姫路市、鳥取市ノ線以西ノ中國、九州各地（高濱、別  
府經由ノ各地ヲ除ク）ト徳島市、加茂名町相互間ノ  
順路ヲ岡山、宇野、高松、引田、佐古經由ニ改ム

六徳島市、加茂名町ヨリ丸亀市、松山市、九州ノ内高濱、  
別府經由ノ各地ニ至ル順路ヲ佐古、引田、高松經  
由ニ改ム

以上改正理由、高德線引田、佐古間鐵道開通ノ結  
果距離ヲ短縮シ且ツ便利ナルニ由ル

七第六二九頁津田村ヲ削除ス